

男と女。 素敵なパートナーです。



女と男 = 人と人

「男は仕事」、
「女は家庭と仕事」?

「男は仕事、女は家庭」。ひと昔前までは、よく言われていたことです。しかし、最近ではその考え方も変わり、女性が働いたり、男性が家事をしたりすることも珍しいことではなくなりました。

昨年二月、国が行った「男女共同参画社会に関する世論調査」によると、「男は仕事、女は家庭」という考え方は同感しない人が約半数を占め、女性が仕事をしながら結婚や出産をするのを認める人が三割と増加傾向にあることがわかりました(グラフ1)。世の中、変わってきたということです。

法律や制度ができて、女性と男性が同じように働く環境も徐々に整ってきました。しかしながら、女性は結婚や出産をきっかけに仕事をやめる傾向にあるのが、今の現状です。

日本の女性の年齢別労働力率を見ると(グラフ2)、男性と異なりM字型を描いています。「仕事を続けたいけれど、育児との両立は

無理」「育児休業を利用すると会社の反応が…」といった理由もありますが、古い社会通念が女性だけに家庭と仕事の両立を求めている、女性自身が家事や育児は女がするものだと考えていたりすることも要因の一つにあるようです。

意識は変わりつつあっても、現実には女性への家事・育児の負担は減らず、「女性は家庭と仕事」という二重の負担がのしかかっている感じがします。

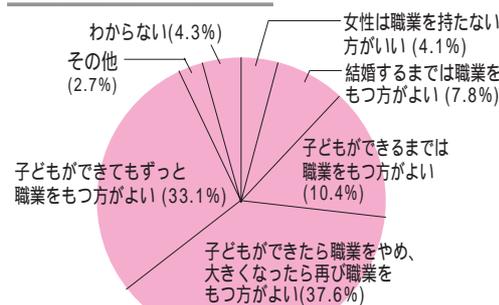
こうした意識と現実とのずれが、晩婚化や少子化といった社会問題にまで発展しているのかもしれない。一方で、男性には「仕事ができる当たり前」など職場や社会からの責任やプレッシャーがかかりすぎています。それもまた古い社会通念の犠牲ともいえるのではないのでしょうか。

みんなの幸せのために 意識と制度の改革

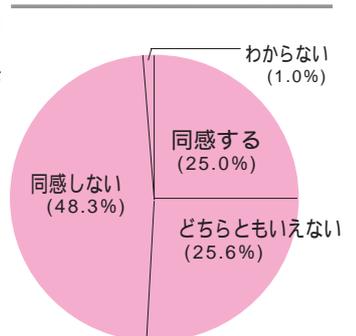
少子高齢化、情報化、国際化などを引き金に、社会はめまぐるしく変化しています。それに対応し

グラフ1 男女共同参画社会に関する世論調査

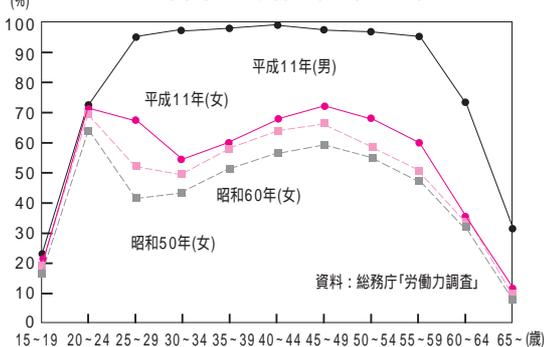
女性が職業を持つことについて



男は仕事、女は家庭という考え方について



グラフ2 日本の年齢別労働力率



先進国の中で女性がM字型を描くのは日本だけです。